進　路　通　信 NO.5

秦野支援学校
サポート・スタディグループ
進路係
2024年3月11日

<新規立ち上げ事業所情報>

ここ最近、秦野市内に福祉事業所の新規立ち上げが２件ありました。いずれも民間企業が母体の事業所で、就労継続支援B型が１１月１日に、就労継続支援A型が２月１日に開設しました。中でもA型事業所は、市内で初めての設立ということになります。まだ、利用者さんが集まっていないので、どんな事業所になるかはこれからの推移を見守る必要がありそうです。来年度の事業所マップに掲載されると思いますが、事前に保護者の皆さんにご紹介します。

					最終更新日	R6.3.5
施設名	チャレンジド　ロトモ					25
事業形態	就労継続支援B型					
代表者	大瀧　道明	設置団体	合同会社　ロトモ			
住　所	〒257-0011 秦野市尾尻495-6 小原台ハイツ　１F	秦野駅南口より徒歩12分 小田急線秦野駅南口よりバス2分 バス停「小原台」下車すぐ				
電話	0463-20-8838	検索・二次元コード	チャレンジド　ロトモ　検索			
ＦＡＸ	0463-20-8839					
メール	contact@rotomo.co.jp					
ホームページ	https://www.rotomo.co.jp/index.html					
活動日	月曜日から金曜日(希望により土曜日　月一回)					
活動時間	10:00～15：00					
利用者	定員	２０名	登録利用者数	０名	平均利用者数	０名
新規受入	随時可能					
送迎	あり（応相談）	送迎エリア	片道20分程度			
昼食	仕出し弁当あり（100円/1食　※食事提供体制加算つき）					
利用者状況	知的	肢体	聴覚	視覚	精神	その他
	◎				◎	◎
活動内容	**「ワークトレーニング」×「生産活動」** 清掃サービス事業者「ロトモ」が提供する専門性の高い職業訓練と安定的な生産活動!! **「ご家庭の御用聞き」×「地域清掃」** 活動を通して地域貢献！地域の中で安心して活動できる環境づくり!! **「ソーシャルスキルアッププログラム」×「スポーツプログラム」×「社会研修プログラム」** 社会的能力の向上と健康づくりを目指した多彩なプログラム!! ＊＊＊活動内容も皆様からのご意見を聞いて柔軟に対応したいと思います＊＊＊					
一口コメント	・安心、安全の場（居場所）の提供から始まり、その人なりの自己実現に向けたお手伝いをしていきます。 ・これから様々なプログラムを一緒に作っていきましょう。 ・秦野を「第２のふるさと」にすべくスタッフ一同、頑張ってまいります。 ・見学や体験いつでも大歓迎です。お気軽にお問合せください。 ・皆さんと一緒に事業所そのものも作っていきましょう！					

					最終更新日	R6.3.5
施設名	就労継続支援A型事業所　Manoa Laki					26
事業形態	就労継続支援A型					
代表者	大木　護	設置団体	株式会社Laki			
住　所	〒257-0035 神奈川県秦野市本町 １－１１－１０　秦野ビル2階	秦野駅から徒歩１４分 最寄り上宿通りバス停から徒歩２分				
電話	0463-26-9321	検索・二次元コード	manoa laki　検索			
ＦＡＸ	0463-26-8725					
メール	manoa.laki0201@gmail.com					
ホームページ	https://manoa-laki.com/worker/					
活動日	月曜日～金曜日、(仕込み作業に従事する場合は日曜日も)					
活動時間	６時～14時の間で4.5時間					
利用者	定員	２０名	登録利用者数	0	平均利用者数	0
新規受入	募集中					
送迎	無し	送迎エリア	無し			
昼食	社割で２００円で提供しています。					
利用者状況	知的	肢体	聴覚	視覚	精神	その他
	○		○		○	
活動内容	主に日替わり弁当の作成・販売に関する簡単な作業です。 『盛り付け』　『調理』　『清掃』　『事務作業』など。					
一口コメント	福祉スタッフが手厚く支援しますので、安心して働くことができます。一人一人の希望や障害特性に合わせてお仕事を考えていきます。毎日２５０個以上のお弁当を作成し、地域の企業・学校・病院へ配達しています。お客様から【ありがとう】の言葉・笑顔を頂けるやりがいのあるお仕事です。					

〈卒業生　その後〉

今年もいよいよ卒業の時期になりましたが、今回は卒業後のアフターフォローについて取り上げたいと思います。高等部卒業後のアフターフォローは、次のような原則に基づいて動いています。

		アフターフォローの実施主体と方法	
		卒業後1～3年目	卒業後4年目以降
卒業後の進路先	企業等への 一般就労者	**学校**が主体で**ぱれっと・はだの** 職員と一緒にフォロー ・年間1～2回の職場訪問 ・企業や卒業生本人またはご家族からの要請に基づく臨時のフォロー (電話・面談・職場訪問)	**ぱれっと・はだの** 単独でのフォロー (電話・面談・職場訪問)
	福祉事業所の 利用者	**(指定特定)相談支援事業所**によるモニタリング(定期訪問と相談) ・指定特定相談支援事業所が卒業時つかなかった場合は、一般相談の窓口(ぱれっと・はだの等)で相談にのってもらう ※卒業間もない時期は、保護者や事業所からの相談を受けて、学校が相談にのるケースもあり	

〈用語解説〉 指定特定相談支援事業所 ＝「サービス等利用計画」を作成し、サービス利用にまつわる相談にのってくれる事業所
一般相談事業所 ＝ サービス等利用計画作成の役割を除く一般の相談にのってくれる事業所(例/ぱれっと・はだの)

〈アフターフォローエピソード〉

ここ３年間で企業に就職した２４名が、学校主体のアフターフォローの対象になっています。２４名中２名が１年目で離職しましたが、そのうちの１名は自分で職探しをして別の企業に転職しました。もう１名は、就労移行支援事業所を利用していましたが、近々再就職が決まりそうだという近況です。

卒業後の最初の職場で定着している卒業生２２名について、定期の職場訪問を実施しました。職場定着している人たちは、どの卒業生も安定感が増して欠かせない戦力として活躍している印象でした。この３月末で３年間を終える卒業生については、学校が支援の役割を終え、ぱれっと・はだのに完全移行します。学校として最後のアフターフォローとなったある卒業生のエピソードを紹介し、アフターフォローの実際の様子をお伝えしたいと思います。

★ある食品スーパーの農産部門で働いている卒業生(Aさん)の職場を訪問しました。事前に職場の上司に連絡を取り、本人のシフトを確認し、上司からも本人からも聞き取りができる日に訪問しました。

ぱれっと・はだのの職員さんと一緒に店の売り場に入ると、Aさんが働いている姿が見えました。売り場でAさんに声をかけようとすると、先にお客さんが声をかけて、購入したい商品の在庫があるかどうか尋ねているようでした。Aさんは、お客さんからの問い合わせを受けて大急ぎでバックヤードに戻り、商品を手にして戻ってきました。そのあと、お客さんとやり取りが続いていたので、我々は上司の話を先に聞こうと思いバックヤードに入りました。バックヤードには社員の方がいたので、彼の勤務状況を尋ねました。

教員「Aさんの勤務の状況はいかがでしょうか？遅刻や欠勤等なく、やっていますか？」

上司「まったく問題なく、やっています。数か月前から勤務時間が前倒しになったのですが、適応してがんばってくれています。周りの従業員との人間関係も良好ですよ。」

Aさんは、昨年の訪問時も順調な就労状況でしたが、丸３年経って益々安定感が増した感じでした。３年を超えて定着した人たちは、離職率がぐんと下がるというデータもあり、我々としては一安心という所でした。

上司の話を聞いた後は、Aさんが接客対応を終えてバックヤードに戻ってきたので、ご本人の話を聞くことにしました。

教員「今日、我々が訪問することは聞いてましたか？」

Aさん「はい、１週間くらい前にチーフから聞いていました。」

教員「さっきの、お客さん対応は随分スピーディーでしたね。」

Aさん「はい、以前対応が遅いと言われてお客さんに叱られたことがあったので、大急ぎでやりました。」

教員「今、上司の方から聞いた話では、とても順調のようですが、本人として何か困ったことはないですか。」

Aさん「特に困ったことはないですが、勤務時間が早くなって朝５時起きをしなければならないのが大変です。」

教員「そうなんですね。朝５時だとまだ真っ暗ですものね。でも職場の人から見ると早い時間の勤務によく適応してくれているという評価でしたよ。あと、休みの日は、どんな風に過ごしていますか？」

Aさん「小中学校の時の友達がみんな大学生なので、平日休みの時に一緒に遊びに行ったりしています。飲み会もよくやっていますよ。」

教員「障害基礎年金は、もらっていますか？」

Aさん「はい、もらっています。それについては母が全部管理しています。給料は、家に何万か入れて、あとは自分で管理して好きなことに使っています。」

そんな風なやり取りをして、Aさんが職場でも家庭でも安定した生活を送っていることが確認できました。

教員「学校の支援はこの３月で終了となって、この先は「はれっと・はだの」がずっと支えてくれるので、何かあったら遠慮なく「ぱれっと・はだの」に相談してください。」と言い残し、アフターフォローを終えました。

我々が立ち去ろうとすると、Aさんは店の出口まで見送りをしてくれて、歩きながらの会話で本音もつぶやいてくれました。

Aさん「部門チーフがこの３年で３人目になるんですが、チーフがかわると方針が大きく変わるのでそれが結構ストレスなんです。店長も新しい人に替わったのですが、今の店長は、いい人です。前の店長はものの言い方が厳しい人でしたけど。」

支援学校の卒業生の離職でよくある事例が、直属の上司の人事異動をきっかけにして不適応を起こしてしまうということがあります。

職場にストレスはつきものですが、Aさんの言葉からは、それを乗り越える逞しさも感じるエピソードでした。